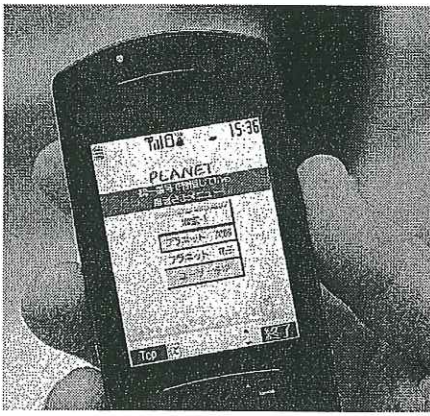


携帯、医療分野も「圏内」



亀田メディカルセンターではFOMA端末やパソコンを通じて電子カルテが閲覧できる

閲覧できる電子カルテの主な項目

病名
病状・所見・治療
薬の処方歴※
細菌・検体の検査結果※
リハビリ記録
栄養記録

(注)※は今秋から、登録日以前のデータも閲覧可能に

携帯電話を活用した医療関連サービスが広がってきた。患者や家族が電子カルテを閲覧できるサービスや、診療予約・待ち時間の確認、糖尿病患者らの食事・運動の自己管理など様々な場面で、患者らの利便性の向上に役立てようとしている。日常生活に身近な携帯電話を介し、医療機関が利用者のニーズにきめ細かく対応することで「医療の質」の向上につながる効果も期待できる。

カルテ閲覧・予約・自己管理…

患者確認しやすく

亀田メディカルセンター(千葉県鴨川市)はNTTドコモの携帯電話で患者らが電子カルテを閲覧できるサービスに力を入れている。両者は二〇〇二年にパソコンとICカードを組み合わせた電子カルテ閲覧サービスを実用化。これを発展させ

世代携帯電話「FOMA(フォーマ)」端末の活用にも乗り出した。サービス全体で約三千人が登録、携帯電話向けは約三十人が利用する。

携帯電話向けサービスはICカードの代わりにFOMAの「First Pass」と呼ぶ認証システムを使う。あらかじめ

じめ登録した患者や家族に限定し、専用サービス内の電子カルテを閲覧できる仕組みだ。

携帯電話などを通じて患者自身が検査結果を見ることができ、離れた場所に住む家族が詳しい病状を把握しやすくなった。治療に対する満足度が高まる効果が出ているという。

従来、サーバーに負荷がかからないよう携帯電話・パソコンとも閲覧できるのはサービス登録の翌日以降の内容に限定。同メディカルセンターは登録受け付け後、患者らが読むことを前提にカルテの内容を平易な言い回

しに切り替えていた。今秋までに、サーバー容量を引き上げるなどシステムを強化。登録前の内容についても言い換えの必要がない、過去の検査結果や薬の処方内容を見られるようにサービス内容を拡充する。

現在はパソコンでしか見られないエックス線画像なども「二、三年内に携帯端末で見られるようシステム開発を進める」(同センターの山田剛士・カスタマーリレーション部長補佐)方針だ。

携帯電話やパソコンを使った診療予約サービスを手掛けている医療情報ベンチャーのアイチケツト(東京・千代田、吉井浩一社長)は今月一日、医療機関から徴収する利用料を二割引き下げた。患者側はこれまで通り通信料のみで診療を予約し、当日の待ち時間も端末で確認できる。医療施設内で診察を受けるまで長時間待つことが難しい子供連れの患者らに好評で、四月までに小児科を中心に、約五百二十施設が採用している。

アイチケツトは競合相手が増えるなか、利用料を月額一万三千二百二十五円から一万五百円に下げるとともに、予約サービスとは別に待合室内で医療番組を放映するなど付帯機能を拡充。利用施設のすそ野を広げ、契約数の上積みを目指している。健康管理への活用も目

立つ。三菱商事が出資する食事改善支援ベンチャーのリンクアンドコミュニケーション(東京・新宿、渡辺敏成社長)は今夏をメドに、生活習慣病の患者ら向けに携帯電話を使いカロリーの低い献立などを検索できるサービスを始める。

一日の献立と運動内容を入力するとカロリーの摂取・消費のバランスが家計簿の収支のようにひと目で分かる「自己管理サービス」を拡充。食材によるキーワード検索のほか「ストレスをやわらげる」「血糖値が気になる」など大まかな条件設定で献立を絞れる。糖尿病や高脂血症の患者らの自己管理に役立てる。

本格的な普及には

安全性の確保カギ

カルテ閲覧など、携帯電話基幹のシステムだ。「外部からアクセスできるように基幹システムに力を入れている。心を持つ医療機関は増えていく。穴を開けるのは抵抗があるが、一方でセキュリティある医療機関が多い」(NTTポケットベル時代からの長いつきあいのある法人顧客。ただ、今年三月末にポケットベルサービスを終え、低電磁波で医療機関で多く使われてきたPHSも来年一月に終了する。これまでの関係を生かし、新しいサービスの普及を狙う。

に対する不安も持っている。ドコモは携帯電話での閲覧専用のカルテを通常の電子カルテと別建てにするなど、セキュリティ